

平成 31 年度入学試験問題（前期日程）

# 小 論 文

（初等教育教員養成課程）

## 注意事項

1. 解答は、すべて別紙解答紙の指定の箇所に横書きで記入すること
2. 解答紙には、かならず受験番号を記入すること

〔1〕 つぎの文章を読み、あとの問いに答えなさい。

◆ 事実と考え

月日の経つのは本当に早いものです。カナリア学園の1学期も、あとわずか。来週は期末テストの週なので、授業は今週で終わりです。

「みんな、今日は1学期の締めくくりの日だね。この授業は1学期限り。だから、今日が最後だよ。このところ、授業がちょっと延長気味だったから、今日はほんの少し早めに終わることにしよう。教室もそろそろ暑くなってきたけど、しっかり聞いておいてください」

「この考える時間の授業のねらいは、常に自分の頭できちんとものごとを考える力を身につけること、そして、そのために考える方法を学ぶということだったね。今日は、事実について述べた情報と考えを述べた情報を区別することから始めよう。まず、

『校長先生は昨日、アイスクリームを2個食べた』

これはどっちだろう。

生徒たち 「実際のできごとについて言ってるから、事実についての情報だと思います」

「そう、事実についての情報だね。『事実について』というのは、必ずしも事実通りでなくてもいいんだ。たとえば、校長先生は甘いものが大好きなので、アイスクリームを本当は3個食べたかもしれない。それはまあ、調べてみればわかることだ。だから、事実についての情報は、正しいこともあれば正しくないこともある。いずれにしても、それを調べることが可能なんだ。では、これはどうだろう。

『アイスクリームはおいしい』

生徒たち 「うーん、これもやっぱり事実……かな？」

「あれれ、とたんに怪しくなってきたぞ。アイスクリームをおいしいと思う人は多いだろうが、中にはそう思わない人もいるよね。これは、正しいとか正しくないとかで割り切れない問題だ。むしろ、私はこう考えるということで、考えだよ。ほかに、たとえば、『～を好きだ、嫌いだ』『～は良い、悪い』というの、考えについて述べたものだね。それから、こんなのはどうだろう。

『校長室にからっぽのアイスクリーム容器が2個あったから、校長先生はアイスク

リームを2個食べたに違いない』

「これは、『からっぽの容器が2個あった』という事実に基づいて推理しているよね。だから、『おいしい、おいしくない』といった話とは少し性質が違う。でも、考えたことには違いない。そこで、『考え』をさらに2つに分けて、個人的な判断である意見と事実に基づいて考えた**推理**を区別することにしよう。ちょっと、黒板に整理しておこうね (図)」

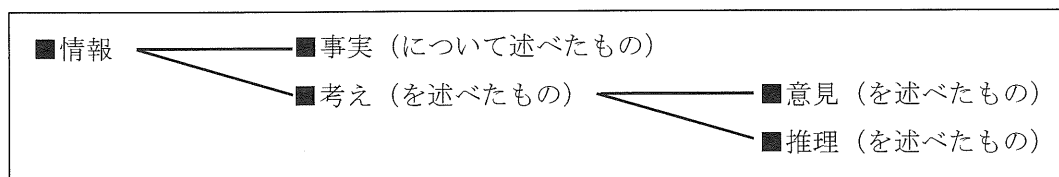


図 事実、意見、推理の区別

#### ◆ 事実の正体

「事実と意見と推理の区別がわかって、だいぶ頭の中がすっきりしたよね。ところが、ここでまたちょっとややこしいことを言わなければならないんだ。事実っていったい、なんだろう？」

「えっ??」

突然のウラシマ先生の問いかけに、きょとんとする生徒たち。

「たとえば、こんな光景を想像してほしい。2人の幼児が砂場でいっしょに遊んでいる。仮に、2人をA児とB児ということにしよう。A児がふざけてB児の頭の上から砂をふりかけた。今度はB児がA児に同じことをした。この砂がA児の目に入った。A児はB児をつきとばした。すると、B児はA児にけりを入れた。2人は泣きながらとっくみあい 시작했다。この光景をはじめから全部、2人の母親が同じ場所から見ていたとする。A児の母とB児の母に、この光景は、まったく同じように見えるだろうか。おそらく、少し違って見えるだろう。どちらかと言えば、わが子が被害者であるように、相手の子が加害者であるように見えてしまうのではないだろうか。そしてお互いに、相手の子どもを『乱暴な子ね』とってしまったりする」

#### ◆ 解釈された事実

「なぜこんなふうになるのだろうか。2人の母親は、同じ場所から同じ光景を見ていたのに。それは、『見る』という行為の中に、すでに解釈がまぎれ込んでいるからなんだよ。たいていの親なら、自分の子がかわいい。自分の子を心配する。そんな気持ちが、事実の見方をゆがめてしまうことがあるんだ。では、そんな気持ちがなければ、つまり主観をまじえずにできごとを見れば、ありのままに見えるだろうか。複数の観察者にまったく同じように見えるだろうか。理屈のうえではそうなるだろう。でも、現実にはほぼあり得ない。なぜなら、まったく主観をまじえずにできごとを見るということは、とてもむずかしいことなんだ。よほどの訓練を受けていない限り、ぼくたちはみんな、自分の立場や感情でものごとを見てしまう。それがふつうなんだ。だとすれば、ぼくたちが『事実』とよんでいるものは、多くの場合、**解釈された事実**なんだよ」

#### ◆ 断片化された事実

「さらに、こんなことも考えてほしい。さっきは、2人の母親がともにすべてを見ていたという話だったね。でも、日常生活の中では、なかなかそうはいかない。途中から見たとか、ある部分だけを目撃したとかっていうほうがむしろ多いだろう。するとどうなるだろう。

たとえば、A児がB児をつきとばすところに、ちょうどB児の母親が通りかかったとする。その後の成り行きを見守っていると、だんだん2人のケンカがエスカレートしていく。まあ、途中でとめに入るだろうけど、少なくともこの母親から見れば、きっかけをつくったのはA児だ。

『最初にうちの子をつきとばしたAちゃんが悪い』とってしまうだろう。一方、その少し前に砂場に来ていたA児の母親は、言うだろう。

『違うわ。Bちゃんがうちの子の目に砂を入れたりするから、やめてくれっていう意味で、つきとばしたのよ。言わば、正当防衛よ』さらに別の時点から見ていけば、それぞれの母親の見方も、また違ったものになるだろう。こんなふうに、多くの場合、ぼくたちは**事実の断片**を見ているにすぎないんだ。たった数分間の幼児のやりとりでさえ、時間軸に沿った経緯、つまりいきさつがある。

これが、長い年月の中でしだいに悪化してきた大人どうしの関係であつたり、さらには何十年もの歴史的な経緯をもつ国と国とのいさかきともなると、事態はいっそう複雑になる。双方が見ている断片化された事実は、必ずと言っていいほど、自分側都合の良いものになってしまうんだ。事実の全貌をとらえようとするときには、この『時間軸に沿った経緯』という視点をはずせない。しかし残念なことに、①ぼくたちが手にとれる情報は、多くの場合、事実の断片でしかないんだ。このことはぜひ、知っておこうね」

出典：「考える心のしくみ カナリア学園の物語」 三宮真智子（著） 2002年 北大路書房（設問の都合により本文の一部を改変している。）

（問1） 下線部①の、「ぼくたちが手にとれる情報は、多くの場合、事実の断片でしかないんだ」とはどのような意味ですか、80字以内で答えなさい。

（問2） あなたが教師になり、子ども同士のケンカがあつた時、あなたはどのようなことを大切にしながら指導しますか。300字以上400字以内で述べなさい。